

第六節 丙第十五号 明治十四年 警視廳府縣 (東京府ヲ除)

治罪法實施ノ上ハ預審判事檢證及ヒ物件差押ノ事件ニ付急速ヲ要スル場合直ニ巡查ヲ同行シ又ハ所在ノ巡查ヲ使用スル儀モ可有之候條預テ可達置此旨相達候事

第七節 丙第十六号 明治十四年 大審院裁判所警視廳 府縣(東京府ヲ除)

治罪法中犯人證人等押印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ押印爲致候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

第八節 丁第二十三号 明治十四年 大審院 十二月五日 裁判所

別紙丙第十五号ノ通相達候條此旨可心得事

第九節 丁第二十五号 明治十四年 大審院 十二月五日 裁判所

治罪法第四百六十二條第二項罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ノ徵收ハ書記局ニ於テ之ヲ擔當シ會計主任ヘ引渡ス儀ト可心得此旨相達候

事

參看治第四百六十二條 刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官又ハ大審院

ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス

可

罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ

之ヲ徵收ス可シ

破壊又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス可シ

第十節 丁第二十六号 明治十四年 大審院 十二月五日 裁判所

使丁規則別冊ノ通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行スヘク此旨相達候事

使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人ト

○第四款 第九節第十節

但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアルヘシ

參看(治)第二十二條

此法律ニ於テ訴訟關係人ニ書類ヲ送達スルニ

付キ別ニ規則アラサル時ハ書記其送達書ヲ作り書記局所

屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシム

若シ書類ノ送達ヲ受ク可キ者裁判所ノ管轄地外ニ在ル時

ハ其地ノ裁判所ノ書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ

第三百三十一條

召喚狀ハ第二十三條ノ規則ニ從ヒ書記局所

屬ノ使丁ヲシテ被告人又ハ其住所ニ之ヲ送達セシム

第二條

使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受ク

ルモノトス

使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受ク可シ

第三條

使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條

使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フ可シ

第五條

使丁ハ送達ヲ爲ス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行ス可シ

第六條

送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フ可シ

參看(治)第二十三條

送達書ハ二通ヲ作り其一通ヲ本人ニ渡ス可シ

本人ニ渡スコトヲ得サル時ハ其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ

雇人ニ渡ス可シ

送達人ハ之ヲ受取リタル者ヲシテ其二通ニ署名捺印セシ

ム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡スコトヲ得ス若シハ是等ノ

者之ヲ受取ルコトヲ肯セサル時ハ其地ノ戸長ニ渡置キ戸長ハ

其書類ニ認印シ速ニ本人ニ送達スルノ處分ヲ爲ス可シ

送達人ハ書類ヲ受取リタル者ノ氏名場所及ヒ日時ヲ其二

通ニ記載ス可シ

本條ノ規則ニ背キタル時ハ書類送達ノ效ナカル可シ

○第四款 第十節

送達人ハ其一通ヲ書記局ニ還納シ書記局ニ於テハ送達ノ証トシテ之ヲ保存ス可シ

第二十四條 休暇ノ日及ヒ日出前日没後ハ書類ノ送達ヲ爲

ス可カラズ此規則ニ背キタル時ハ其送達ノ效ナカル可シ

但本人承諾シテ其送達ヲ受ケタル時ハ此限ニ在ラス

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付代人トナリテ訟廷ニ出ルヲ

許サズ

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其

償ヲ擔當ス可シ

但使丁ノ過失懈怠ニ由ル時使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ム

ルヲ得

第九條 送達賃錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラズ一通ニ付一里五錢以下ト

ス

賃錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決シ且送達書ニ其賃錢高ヲ附記ス可シ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又

其他ノ方法ヲ以テ公告ス可シ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ拂置

ク可シ

但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置ク可シ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス証人鑑定人通事ノ呼出狀

二 檢察官ノ控訴申立ヲ被告人ヘノ通知及ヒ呼出狀

三 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達

ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フ可シ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ

○第四款 第十節

爲ス可シ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フ可キ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出ス可シ

第十五條 使丁取締及使丁此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムルヲ

二 解職セシムルヲ

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルヲ

第十六條 使丁取締タルコトハ其裁判所々在地ニ家屋ヲ有シ滿二十歳以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルヲ要ス

使丁取締タルコトハ身元保證トシテ金五十圓以上ノ價格アル公債證書地券又ハ銀行其他官許アル株券證書ヲ書記局ニ納ム可シ
但此保證金ハ解職ノ時下戻ス可シ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

但書記不足ナルトキハ雇ヲ以テ之ニ充ツ可シ

試験ノ科目ハ左ノ如シ

一 使丁規則

二 請負郡村ノ地名又ハ里數

三 普通書簡ノ書讀

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限りノ處分ヲ受ケ未タ辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルヲ許サス

第十一節 丁第二十七号 明治十四年 大審院
十二月九日 裁判所

第一款第七節 参照スヘシ
本年第五十四号公布ニ依リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クハ其管轄輕罪裁判所ノ名稱ヲ用ヒ其印ヲ捺シ其治安裁判所ニ於テスル
一 附記スヘシ左ニ離形相添ヘ此旨相達候事

九七一

書式離形

第四款 第十一節第十二節

於八王子治安裁判所
橫濱輕罪裁判所

印章雛形

橫濱輕罪
裁判所

第十二節 丁第廿八号 明治十四年十月十二日 大審院
裁判所

治罪法中ニ掲ケタル送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收監狀及宣誓書式別紙ノ通相定候條右ニ照準ス可シ此旨相達候事

參看(治)第二百二十九條 收監狀ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 被告事件ノ概略及ヒ加重減輕ノ摸樣アル時ハ其概略
- 二 其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
- 三 檢察官ノ意見ヲ聽キケル

第三百三十條 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業

住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除クノ外其氏名分明ナラカ
ル時ハ容貌體格等ヲ明示ス可シ

又令狀ニハ之ヲ發スルノ年月日時ヲ記載シ豫審判事及ヒ
書記署名捺印ス可シ

勾引狀勾留狀收監狀ハ巡查ヲシテ之ヲ執行セシム

第十三節 丙第十七号 明治十四年十月十九日 警視廳府縣
(東京府ヲ除ク)

治罪法令狀樣式別紙丁第廿八号ノ通大審院裁判所へ相達候條其旨可
相心得且司法警察官ニ於テ令狀ヲ發スル時ハ右ニ照準シテ取計フ可
シ此旨相達候事

用紙美濃ノ類

送達書

輪郭寸法凡 堅七寸五分 横五寸四分

<p>一 送達スヘキ書名 登册 一同 登通</p> <p>右使丁ヲ以テ何府縣下何町又ハ 何國何郡何村何番地何某ヘ送達 セシムル者也</p> <p>明治 年 月</p> <p>何裁判所</p> <p>書記 氏名印</p>		<p>受取人ノ署名 檢印若シ能ハ サル時ハ其事 由</p> <p>送達シタル 月日時</p> <p>送達シタル 場所</p> <p>親屬雇人若ク ハ戸長ヘ書類 ヲ渡シタル時 ハ其事由</p>	
<p>何裁判所 日 所之印</p>		<p>使丁 氏名印</p>	



是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

送達書

一葉ヲ書記局ニ送納スル

一送達スヘキ書名	壹冊
一同	壹通
右使丁ヲ以テ何府縣下何町又ハ何國何郡何村何番地何某ヘ送達セシムル者也	
明治 年 月	何裁判 日 所之印
何裁判所	書記 氏名印
受取人ノ署名	使丁 氏名印
捺印若シ能ハサル時ハ其事	
送達シタル	
月日時	
送達シタル	
場所	
新屬雇人若シハ戸長ヘ寄類	
チ渡シタル	
ハ其事由	
右致送達候也	

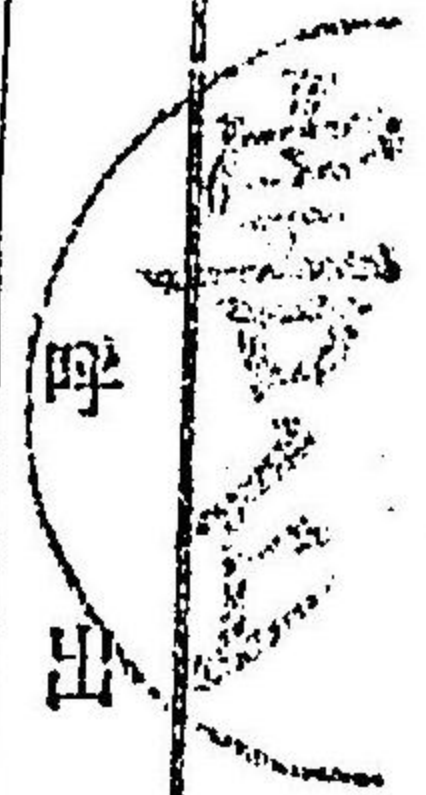
呼出狀

此呼出狀ハ出頭ノ節書記局ニ差出ス可シ

住所身分職業	氏名
右云々ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀有之來ル	
何月日時何所ニ出頭可致者也	
但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ	
明治 年 月	何裁判 所之印
何裁判所	豫審判事 氏名印
書記	氏名印
受取人ノ署名	使丁 氏名印
捺印若シ能ハサル時ハ其事	
送達シタル	
月日時	
送達シタル	
場所	
親屬雇人若シハ戸長ニ渡シタル時ハ其事	
由	
右之通取扱候也	
明治 年 月 日	

是ヲ中斷シテ一業ヲ受取人ヘ渡シ





呼出狀

一葉ヲ書記局へ還納ス可シ
此呼出狀ハ出頭ノ節
書記局ニ差出ス可シ

住所身分職業
氏名

右云々ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀
有之來ル何月日時何所ニ出頭可致者也
但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ
言渡シ且勾引狀ヲ發スルヲアル可シ

明治 年 月

何裁判
日
所之印

裁判所

豫審判事 氏名印

書記 氏名印

受取人ノ署名
捺印若シ能ハ
サル時ハ其事
送達シタル
月日時
送達シタル
場所
親屬雇人若ク
ハ戸長ニ渡シ
タル時ハ其事
由

右ノ通取扱候也

明治 年 月 日

使丁 氏名印

召喚狀

住所身分職業
氏名

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之何月日
時當裁判所ニ出頭可致者也

明治 年 月

何裁判
日
所之印

裁判所

豫審判事 氏名印

書記 氏名印

受取人ノ署名
捺印若シ能ハ
サル時ハ其事
送達シタル
月日時
送達シタル
場所
親屬雇人若ク
ハ戸長ニ渡シ
タル時ハ其事
由

右ノ通取扱候也

明治 年 月 日

使丁 氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ



召喚狀

一葉ヲ書記局へ還納ス可シ

住所身分職業

氏名

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之何月日時當裁判所ニ出頭可致者也

明治 年 月



何 裁判所

豫審判事

氏名印

書記

氏名印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事

送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若クハ戸長へ書類ヲ渡シタル時ハ其事

ハ其事

右ノ通取扱候也

明治 年 月 日

使了氏名印

(檢事官印) 勾引狀

住所身分職業

氏名

(若シ氏名分明ナラザルハ其容貌体格等)

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判所へ勾引ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月



何裁判所

豫審判事

氏名印

書記

氏名印



勾引シタル被

告人ノ署名捺

印若シ能ハサル時ハ其事

由

執行シタル月日時

執行シタル場所

執行ノ手續

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其

由

勾引スルヲ能ハサル時ハ其

事由

右ノ通取扱候也

明治 年 月 日

巡查又ハ憲兵氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

檢事官印

勾引狀

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

住所身分職業

氏名

(若シ氏名分明ナラザルハ
ルビハ容貌体格等)

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判
所へ勾引ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス
可シ

明治 年 月

何時
日時
所之印

何裁判所

豫審判事

氏名印

書記

氏名印

勾引シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ル時ハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
被告人ニ正本ヲ示シ聽テ下付ス

家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其
由

勾引スルヲ能
ハサル時ハ其
事由

右ノ通取扱候也

明治 年 月 日

巡査又ハ憲兵氏名印

檢事官印

勾留狀

住所身分職業

氏名

(若シ氏名分明ナラザルハ
ルビハ容貌体格等)

右云々ノ事件ニ付治罪法第二百二十六條
ノ規則ニ從ヒ何處監倉へ勾留ス可キ者
也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス
可シ

明治 年 月

何時
日時
所之印

何裁判所

豫審判事

氏名印

書記

氏名印

勾留シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ル時ハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
被告人ニ正本ヲ示シ聽テ下付ス

家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其
由

勾留スルヲ能
ハサル時ハ其
事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

巡査又ハ憲兵氏名印

是テ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

勾留狀

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

住居身分職業
氏名

右ニテノ事件ニ付治罪法第二百二十六條ノ規則ニ從ヒ何所監倉へ勾留ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月 日 時

豫審判事 氏名 印

書記 氏名 印

勾留シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ル時ハ其事由	執行シタル 月日時	執行シタル 場所	執行ノ手續 家宅搜索ヲ爲 シタル時ハ其 由	勾留スルコト能 ハサル時ハ其 事由	右之通取扱候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵氏名印
--------------------------------------	--------------	-------------	--------------------------------	-------------------------	----------------------------------

送替人ニ正本ヲ示シ謄本ヲ下付ス

收監狀

住居身分職業
氏名

右云々ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處本罪刑法第 條ニ該ル可キ者ト思料ス依テ檢事ノ意見ヲ聽キ何所監倉ニ收監ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月 日 時

豫審判事 氏名 印

書記 氏名 印

收監シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ル時ハ其事由	執行シタル 月日時	執行シタル 場所	執行ノ手續 家宅搜索ヲ爲 シタル時ハ其 由	收監スルコト能 ハサル時ハ其 事由	右之通取扱候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵氏名印
--------------------------------------	--------------	-------------	--------------------------------	-------------------------	----------------------------------

送替人ニ正本ヲ示シ謄本ヲ下付ス

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ



收監狀

一葉ヲ書記局へ還納ス可シ

被告ノ姓名

被告ノ職業

名

執行シタル月日時

執行シタル場所

執行ノ手續

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其

由

收監スルヲ能ハサル時ハ其

事由

明治 年 月 日 時

裁判所

豫審判事

書記

長

氏名

右之通取扱候也

明治 年 月 日

書記局

右ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處本罪刑法第何條ニ該ル可キ者ト思料ス依テ檢事ノ意見ヲ聽キ 監倉ニ收監ス可キ者也
但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

宣誓書

何ノ事件ニ付愛憎畏懼ノ心

ナク總テ正實ニ 陳述ス可キ

ヲ誓フ

明治 年 月 日

被告人

氏名 印

第十四節 丁第二十九号 明治十四年十月十三日 裁判所
郡區長へ公文往復ノ義ニ付明治十三年本省丁第十一号ヲ以テ相達置候旨モ有之處來明治十五年一月一日己後ハ都テ裁判所ノ名ヲ以テ往復可致此旨相達候事

第十五節 丁第三十号 明治十四年十月十四日 裁判所

裁判所印章ノ儀來明治十五年一月一日以後左ノ通改定候條各廳ニ於テ調製シ印鑿ヲ以テ可届出此旨相達候事

印章雛形

何々々	控訴	始審	治安	輕罪	違警罪
裁判所	裁判所各一	顯チ彫刻ス			

字体ハ篆書ヲ用ヒ認易キヲ要ス且文字ノ數ニ據リ或ハ之印ノ字ヲ刻スルモ妨ケナシ

第十六節 丁第三十一号 明治十四年十月十五日 裁判所

本年(本月)甲第七号布達裁判言渡ノ謄本又ハ拔書ヲ求ムル者代價ノ義無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不苦義ト可心得此旨相達候事

第十七節 丙第十九号 明治十四年十月十九日 (警視廳府縣 東京府ヲ除ク)

警察署ニ於テ審判シタル違警罪事件表並既決犯罪表別紙様式ニ照準シテ調成ス可シ尤違警罪事件表ハ治罪法第五十二條ニ從ヒ差出ス儀ト可心得此旨相達候事

參看(治)第五十二條 違警罪裁判所檢察官ハ毎月未決既決ノ事件表

ヲ作リ輕罪裁判所檢事ニ差出ス可シ
事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第四百六十四條 裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタル時

○第四款 第十四節第十五節第十六節第十七節

第三款第二節參照スヘ

又ハ犯罪事件漸ク増加スト雖モ過半ハ何々ノトニ關スル犯
 罪ナルヲ以テ久シカラスシテ常ニ復ス可シト思フス
 又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々
 等因リ何月以來事務ヲ執ルコト能ハサルニ由ル
 又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原由セリ因テ久シカラヌシテ
 増加タ見ルニ至ル可シト思フス
 署長意見アラハ亦前文ニ準ス

治罪法第四百六十四條既決犯罪表式

何警察署(警察分署)既決犯罪表

伊藤某

號		イ									
對審 關席區別	裁判言渡ノ年月日	犯數	刑名	罪名	本籍	出生ノ地	住所	職業	年 齡	氏 名	
對審裁判(或ハ關席裁判)	何年何月何日	初犯(或ハ再犯)	重禁錮何年或ハ(何月)	竊盜	同上	同上	何處何處何村町	何々	何年何月	伊藤某	

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニス可シ
表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

第十八節 丙第二十号 明治十四年十月二十八日 大審院裁判所警視廳
府縣(東京府ヲ除ク)

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

參看(刑)第六十二條 刑ノ執行ヲ道レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル

時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第十九節 丁第三十三号 明治十四年十月十九日 裁判所

刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是造區々相成居候處來明治十五年一月ヨリ左ノ通可相心得此旨相達候事
刑事裁判言渡アリタル者ハ治罪法第四百六十四條ニ掲クル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戶長ニ通知シ該表ハイロハ標号ニ從ヒ區別編纂致置可シ

○第四款 第十八節 第十九節

號		イ										何裁判所既決犯罪表
對審 關席 區別	裁判 言渡 年月日	犯 數	刑 名	罪 名	本 籍	出 生 ノ 地	住 所	職 業	年 齡	氏 名		
對審 裁判 關席 裁判	何年何月何日	初犯或再犯	重懲 何年何月	竊盜	同上	同上	同上	同上	同上	伊藤某		

四〇二 犯罪人ノ前科取調ヲ要スルキハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致置タル既決犯罪表寫ヲ送致ス可シ

イ号	既決犯罪表	何裁判所
----	-------	------

イ号目錄

伊藤某
生駒某
飯塚某

一丁
二丁
三丁

イ号

此表治罪法第四百六十四條ニ依リ裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタル時其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ルモノトス但一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ之ヲ編綴シ探討ニ便ス可シ

表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

第二十節 丁第三十四号 明治十四年十月二十三日 大審院 裁判所

治罪法第五十二條第四款
表式ハ第四款第十七節ニアリ

治罪法第五十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條表式別紙ノ通相定候條右ニ照準シテ調成ス可シ此旨相達候事

但明治十年丙第十七号達犯罪未決件數表丁第六十二号達犯罪糾問表ハ來ル十五年一月一日ヨリ廢止候事

參看(治)第六十八條 檢事長ハ三月毎ニ預審及ヒ公判ノ未決既決ノ

事件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ

又輕罪裁判所檢事ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ司法卿

ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第七十六條 控訴裁判所檢事長ハ閉廳ノ後既決事件表ヲ作

リ司法卿ニ差出ス可シ

○第四款 第二十節

此表總テ件數ヲ以テ記載ス可シ既濟未濟ノ日數ハ受理ノ日ヨリ豫審終結或ハ送致シタル日迄ヲ算ス以下各表之ニ準ス
 既濟未濟日數二月以上ノ者アラハ一月毎ニ區別シテ記ス可シ
 以下各表之ニ準ス但未濟三月以上ニ及フ者アラハ其事由ヲ註明ス可シ
 表中斜線ヲ填シタル欄ハ件數ヲ記入スルニ及ハス以下各表之ニ準ス

第三號 治罪法第六十二條豫審表式ノ二

明治何年 自何月 至何月 何輕罪裁判所豫審未濟人員表

日數區別	未濟總人員		監	保釋責付不入監
	舊受新受收監	入		
十日未滿				
十日以上				
一月未滿				
一月以上				
二月未滿				
合計				

何月何日閱

所官長 氏名印

何月何日調

檢官事 氏名印

此表未済人員ノ現在ヲ以テ記ス可シ例ヘハ先ニ拘留スト雖モ現ニ
 收監ナレハ現ニ收監シタル日數ヲ以テ記スルカ如シ但不入監トハ
 收監拘留保釋責付ヲ爲サ、ル人員ヲ云フ

第四號 治罪法第六十二條輕罪事件表式

明治何年 自何月 至何月 何輕罪裁判所輕罪既決未決事件表

何月何日調	既濟未濟日數			件數	輕罪			總數	上數ノ内	既	濟未	會議后	上數ノ内	總						
	十日未滿	十日以上一月未滿	一月以上二月未滿		受審	舊新	受審								會審直ニ付	無罪	免刑ノ言渡	管轄違フ言渡	棄願	消滅
	/	/	/																	
	/	/	/																	
	/	/	/																	
	/	/	/																	
	/	/	/																	
	/	/	/																	
	/	/	/																	
	/	/	/																	

檢事及所長意見ヲ記載スルハ違犯罪表式ニ準ス

何月何日調 檢事 氏名印
 何月何日調 官長 氏名印

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルハ本表ニ準シテ調成シ
其所轄控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ豫審モ之ニ準ス

第五號 治罪法第六十八條輕罪控訴事件表式
明治何年 自何月 至何月 何控訴裁判所輕罪控訴既決未決事件表

原裁判所	總件數		既	濟	未	會議局	上數ノ内	總														
	舊受新受	同原異原 重罪裁判 所へ移ス							棄却	消滅	願下	濟	舊受新受	判決	未濟	告上						
合計																						
	十日未滿	十日以上 一月未滿	一月以上 二月未滿	未決 日數																		
何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官	檢事長 官
氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印	氏名印

檢事長及所長意見ヲ記載スルハ違響引表式ニ準フ

第八號

治罪法第八十二條大審院既決未決事件表式

明治何年自何月何日大審院既決未決事件表ノ二
哀訴再審裁判管轄ヲ定メ或ハ移スノ訴

事件	總件數		上數ノ内		既	管轄	棄却	消滅願下	未濟
	舊受	新受	刑ノ言渡 ヲ受ル者 及ヒ其他 ノモノヨリ	破毀					
哀訴									
再審ノ訴									
裁判管轄ヲ定ムルノ訴									
裁判管轄ヲ移スノ訴									
合計									
既濟日數	十日未滿	十日以上	一月未滿	一月以上	二月未滿				
何月何日調									
何月何日閱									
檢事長 官 氏名印									
院 官 氏名印									

檢事長及院長意見ヲ記載スルハ違犯罪表式ニ準ス

大審院ノ表式ハ分テ第一第二トス第一ハ上告ヲ記シ第二ハ哀訴再
審ノ訴裁判管轄ヲ定ルノ訴裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ記ス

明治十五年二月廿七日出版御届
同 年四月 刻 成

定價金六十錢

編輯人

福岡縣平民

宗 勝 三 郎

東區伏見町四丁目八番地寄留

出版人

大坂府平民

岡 島 真 七

東區本町四丁目五十九番地

印刷

同支店

岡 島 活 版 所

東區本町四丁目六十番地

發兌

諸新聞雜誌
賣捌所

岡 島 支 店

東區本町四丁目三番地

判事淺井佐一郎編
多治比裕維編輯

一 刑法新令類輯初編

此書ハ刑法治罪法ノ頒布明治十三年七月ヨリ同十五年一月ニ至ル該法ニ關スル布告布達及ヒ諸官廳達等ヲ編輯セラレシモノニシテ苟モ法律ニ從事スル諸君ハ必ス座右クヘカサモル書ニシテ自今該法ニ係ル何指令等ヲモサノ出ルト共ニ隨テ錄シテ隨テ編シ冊ヲ及ヒ成スニ每六ヶ月逐次編纂セラレ弊鋪ニ於テ今般發兌ス請フ四方ノ君子陸續御愛覽アラントナ

一 日本刑法特法備攷

右ハ本府警官宗勝三郎氏ノ編輯ニシテ新刑法治罪法ニ係ル百般ノ布告達並諸表式ヲ基本トシテ之ニ干渉スル刑法治罪法及ヒ刑法附則監獄則ノ條項ヲ蒐輯シ一令一符モ遺サ、ル無類完全ノ者ナリ

一 刑法附則

正監獄則

全一冊 定價八錢
全壹冊 定價十一錢

宗勝三郎編輯

一 陸海軍刑法一般對比 全一冊

右ハ陸海軍新舊刑法及治罪手續并關係スル普通刑法ノ條章ヲ對比シ附スルニ新舊法比照規則及陸軍懲罰令ヲ以テシ一讀セハ法章ノ相干涉スル所ヲ知り得ルモノナレハ該法施行ニ關係アル諸彦ハ勿論自餘ノ諸君モ坐右ニ闕ク可カラサル良書ナリ

一 追告 近刻 一冊

一 合卷刑法注釋大全 近刻 一冊

一 全治罪法注釋大全 近刻 一冊

刑法治罪法ノ注釋タル世間其數枚舉ニ暇アラズ然ルニ明々隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス故ニ今般其缺ヲ補ヒ加之上欄ニ刑法治罪法布告以降本年二月マテノ布告布達及ヒ司法省諸達刑法治罪法ニ關スル何指令等ヲ舉ケ本條ト共ニ注釋ヲ加ヘ讀ミ難キ文字ニハ傍訓ヲ施シ一目瞭然官民ヲシテ疑念ヲ氷解セシムル良書ナリ

淺井魁編輯

刑事審判手續

全壹冊 洋本 綴リ

本書ハ刑法治罪法ヲ實施スルノ細則ニシテ或ハ新法ニ關涉スル布告及ヒ達ノ樞要ナルモノヲモ撮錄シテ漏サス誠ニ當路者ノ一日モ坐右ヲ離ス可カラサルハ勿論公衆ト雖モ民權ヲ更張スルノ必要ニシテ即今陸續發行スルノ不完全ナル未書ノ類ニ非サレハ請フ江湖ノ諸君購求アラントナシ謹白

大橋濟注釋

一 皇國治罪法對比注釋

全壹冊 定價 金一圓廿五錢

小山景止編纂

一 皇國刑法對比合卷

全一冊 定價 金八十五錢

大政官公版翻刻

一 刑法合卷

全一冊 定價 廿五錢

大坂裁判所藏版

一 諸罰則概表

全一冊 定價 金四十錢

佐藤茂一編著

一 日本憲法論纂

西洋仕立全一冊 定價 六十五錢

右書ハ東京日報記者及毎日記者在英京末松氏等ノ高論卓說ヲ纂輯シ又欄外佛國憲法ヲ挿入シたるものあるが故ニ看者ノ大便ニ言を俟ニ之實ハ當今必要ノ良書ナリ蓋苟も忠君愛國之士坐右ニ置キ日夕繙閱すれば則ち他日國家憲法制定の際其益を得る豈淺少あらん哉

一 土地地券例規全書

全壹冊 定價 金壹圓

一 同 二 版

十四年分 全一冊

此書ハ土地ニ管スル官省局布告布達及府縣ノ何指令ヲ盡ク編纂シ增加ハ追録シ廢除ハ背キ許多ノ規則ヲ請記スルノ苦シミナク一掃瞭然其簡便獨リ當務者ノ緊要ノミナラス土地ヲ所有スル者座右ニ飲可ラサル必用ノ書ナリ

一 刑名刑法解釋

全一冊

一 治罪要錄

全一冊 定價 金一圓三十錢

判事補淺井佐一郎編輯

政正 民事覽要

甲篇全一冊
定價二圓五十錢

本篇ハ維新革命ヨリ明治十二年ニ至リ發令セ
ル民事詞訟ニ攬要ナル官令ヲ撮録合輯セシモ
ノナリ其類ヲ分ツテ四十一章ト爲シ逐條要旨
ヲ摘採シ卷首ニ掲ケテ數ナ附スルヲ以テ尤緒
關ニ便ナリ而テ既ニ改正成ル條件ハ原文ヲ略
シ要領及ヒ發令年月日號ヲ記シ以テ其沿革ヲ
知ラシム然レモ證券印稅受人證人辨償規則ノ
如キ當時ノ定約存スルモノ之ヲ載録セリ或
ハ卷中照合ス可キモノハ其條件ヲ記スルニヨ
リ一目シテ且亦沿革ヲ知ル可シ苟モ訴訟ニ關
スルノ法令載セテ漏サス實ニ民事緊要ノ書ト
爲ス諸君幸ニ購求アラソクナク

一同 二版 十三年分 全壹冊 定價五十錢

一同 三版 年々逐次刊行

一同 乙篇 增補同指 令之部 近刻

大坂上等裁判所藏版

一官令摘要 全一冊 定價金二圓

津田真一郎譯

一泰西國法論 全一冊 定價金廿五錢

小林義秀譯

一政體論 全一冊 定價金廿五錢

堀越愛國譯

一經濟論 全一冊 定價金三十錢

高橋建治譯

一交際論 全一冊 定價金廿五錢

若山正編輯

一警察彙要 全一冊 定價金一圓

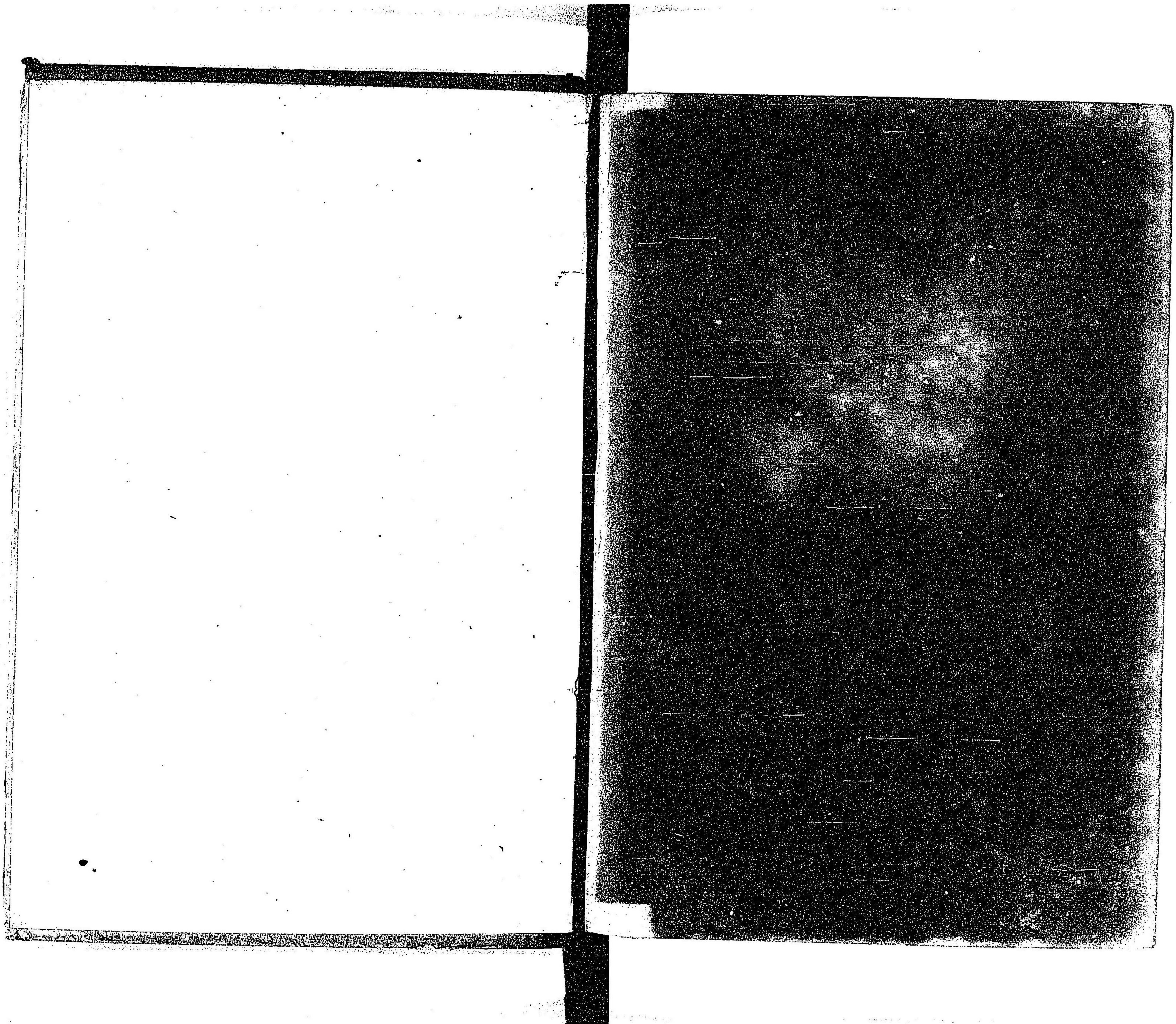
坂卷源太郎編輯

一刑法一覽表 折本全一冊 定價金十二錢

市石照編輯

一輕罪刑律加減表 折本全一冊 定價十二錢

何レモ各地書林へ差出置候間其御最寄ニテ御購求之程奉願候



東 京 圖 書 館

新 門 四 四 函

一 一 部 架

類 號

3
66

宗勝三郎編輯

日本刑法治罪法特法備考

明治十五年四月印行

036135-000-2

CZ-711-0174

日本刑法治罪法特法備考

宗勝三郎/編

M15

BBP-0800

